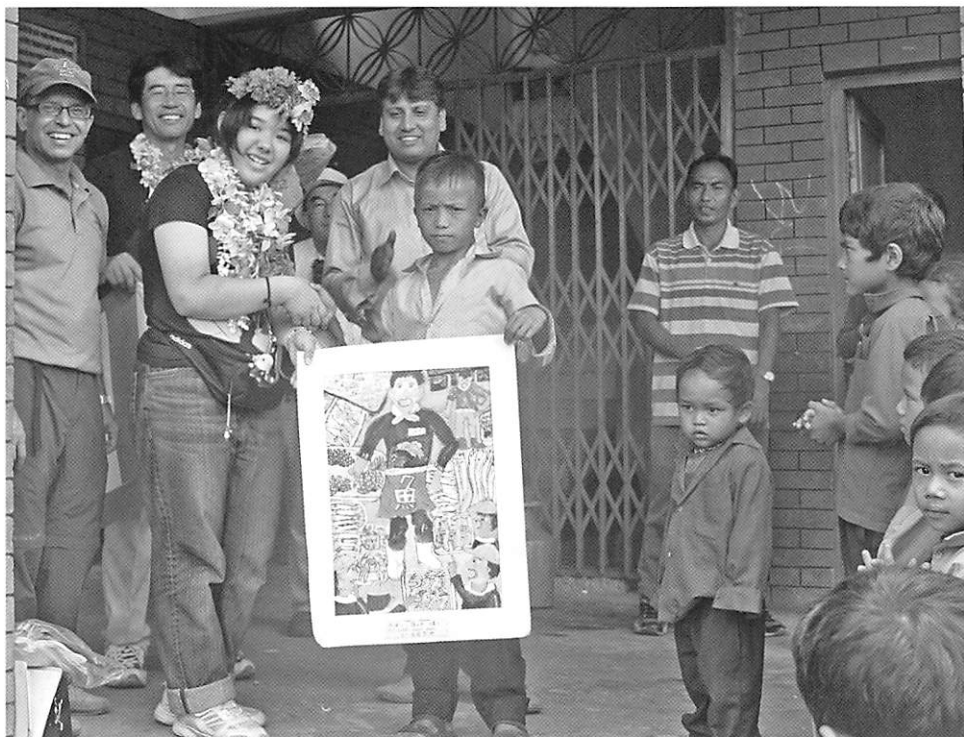




# ガハテ村通信

篠山ナマステ会 事務局 〒669-2221 篠山市西古佐921 振替口座 00930-6-29629



セティディピ小学校で絵画の贈呈式をしました。

## 深めよう！篠山とネパールの友好の絆を

篠山市の子どものための絵九六枚を贈る  
日本（篠山）・ネパール絵画交流事業

今回のネパールスタディツアーの目的の一つに、篠山市内の小・中・特別支援学校の児童生徒の絵画をネパールの小中学校に届けて、草の根の交流を深めることができました。

篠山ナマステ会の企画に対して、市内一五校より篠山市を紹介する絵画を中心に九六枚のご協力がありました。私たちはこれを携えて、七月二二日カブレ郡マハデプスタン地区（VDC）の二校を訪問しました。一つは、私たちが建設・運営を支援し交流を続けているセティディピ小学校（児童数六六名）、もう一つはセティディピ小学校の卒業生が多く進学するラダ・クリシュナ小中学校（児童生徒数一六二名）です。

ツアー参加者を代表して 平井くるみ さん（篠山東中出身、篠山東雲高一年）より両校の校長先生に篠山市の子どものための思いをこめた絵画を手渡していただきました。校長先生からは、お礼と「これからもこのような形で交流を一層深めていきたい」とのご挨拶を戴きました。そして、両校からはネパールの寺院や生活等を紹介する絵画七五枚が篠山市の子どものために贈られました。本会ではこれらの絵画を広く市民の皆さまにもご覧いただくため、九月に篠山市民センターで展示会を開催しました。

一枚一枚の児童生徒の皆さんの思いをこめた絵は、きっと日本とネパールを結ぶ友好の絆に成長していくことと思います。ありがとうございました。



ラダ・クリシュナ小中学校での贈呈式

# ネパールスタディツアー2013 今後の交流のあり方を考える

今回PHD協会と共催でネパールツアーを企画した。今後の篠山ナマステ会の交流方法について考える機会とした。

## ガハテ村の担い手は誰か 渡辺 拓道

セティ・デイビ小学校の開校でガハテ村の教育環境は間違いなく改善した。家庭の労働力とされてきた多くの子どもたちが学びの機会を得た。しかし、開校から年数がたつと、村人の学校に対する関心は低くなり、学校環境が悪化して児童数は減少し始めた。

今回のツアーは、小学校を村人はどのように考えているのか、また支援を継続するにしても今後のビジョンを共有する必要があると実施した。また、近隣で比較的運営がうまくいっていると聞いているラダクリシユナ小中学校も視察しながら、ガハテの村人の自主的な学校再生と生活改善の応援につながる交流のありかたを探った。

### 一 課題と感じたこと

① 孤立した学校運営  
ツアー中に学校運営についての協議を行ったが、出席した村人や支援を行ってきたSSSから一様に「学校運営の努力が足りない」「受け取っている公的  
学校運営資金で課題解決できる」と校長の責任を問う趣旨の発言が出た。学校運営委員会がきちんと機能していない。

② 学校施設の管理不足と老朽化  
学校建物ができて十年になり、経年劣化はしかた

ないが、外壁のモルタルはく離などの修繕は全くなされていらない。水道の不通は放置されトイレが使用できず一か所を除き施設されていた。校庭をはじめ学校周辺にはゴミが多く、校舎壁の汚れも目立っていた。

③ 児童数減少と教員不足  
児童数が減少した。その結果、教員が一名減となっていた。

④ 村内のコミュニケーション不足  
ビショ・ジットの発案で設立された協同組合を視察した。まだ金融互助組織としての役割しか果たしていないが、肥料の協同購入などによる農業経営改善への計画はある。しかし、その枠組みはタマン民族に限定され、組織は政治色を持ちつつある。村内の民族間やSSSとの間で、また、村を出ている若者グループ等との連携やコミュニケーションができていないようだ。

⑤ 青年男子の流出  
ガハテでも多くの家庭の男子は、高等教育を受け就業するために首都カトマンドウや海外に出てしまっている。仕送りはあるものの高齢者のみの世帯も増加してきており深刻な社会問題になりつつある。

⑥ 向上しない村の経済  
村の農地は有効に使われており無難な収穫はあるが、物価が上昇し続けるネパールにおいて従来の農業収入だけでは生活が困難となっている。収益を見込める養鶏は、国内での鳥インフルエンザの流行があり衛生管理が大きな課題となっている。

二 担い手の考察  
今回のツアーで交流対象や支援対象を明確にする必要性を感じた。

① 学校運営の担い手  
現在セティ・デイビ小学校の運営に責任を負って

いるのは学校長をはじめとする教職員だけになっていく。先出の協議会の際、水道改修に関係者の協力が得られず、校長、教諭、校務員のみで工事を実施することになったことから明らかである。

② 村の担い手  
青年男子の流出によって村は子育てをする女性と高齢者が中心となってきた。今後は、女性の活躍が村の将来を左右すると思われる。

帰国したPHD研修生をみては女性のウルミラやパッサンの活躍が目立った。また、篠山ナマステ会が資金供与をしている奨学金事業で、SSSは対象者を女性としていることも頷ける。

③ 村の発展を応援するしくみ  
現在の村は様々な問題があり自主的に村づくりを進められる段階にない。日本から直接村をサポートすることは極めて困難だ。村の発展には今後もSSSの役割が重要であると考える。

三 私たちにできること  
今回のツアーは国際支援の本質を考えさせられるものであった。私たちは、校舎や運営資金の応援が一段落したことで、後は村人の自立精神を尊重しようとしていた。しかし、現実には様々な新しい問題が生まれてきており、自立した村の姿は、まだその輪郭も見えてきていない。

ガハテ村は、篠山ナマステ会の原点である。村の課題を理解し、寄り添いながら、自立の大切さのメッセージを送り続け、現場や実際の担い手を応援することが必要だろう。



奨学金用品を手にする女子学生

初の実施となった絵画交流は、私たちが寄り添っていることのメッセージになったと思っている。また、水道施設の不良を心配する姿を見せることで早期の修繕につながり、再び学校で水が使用できるようになった。遠く離れた日本からでも私たちの心配と期待を伝えることはできるのではないだろうか。ただ、SSSの動向には心配をしている。私たちはガハテの自立にはSSSが必要であるとのメッセージを伝え続ける責任がある。

さらに、セティ・デビ小学校の再生に何ができるだろうか。私達は、関係者から認められる学校運営への提案、協力ができないだろうか。例えば、ネパールの公共的空間（道路、川、水汲み場など）の汚さは有名である。ところが、一歩個人の居宅に足を踏み入れると、どの家も整理整頓がなされ掃除が行き届いている。環境面から校内美化を推進し、時には校外の美化活動を行う公共性を育む教育を学校運営の基礎に置くことで学校評価が高まるのではないだろうか。

セティ・デビ小学校のあり方を共に考えると同時に、私たちはそのために応援メッセージを送り続けなくてはならない。



再開した水道に大喜びの子どもたち

**参加者の感想**  
**一五年ぶりのネパール・ガハテ村**

一九八二年PHDの提案者岩村昇博士と賛同する篠山の有志が「たんば農文塾」を創設し、第一期生ネパールのバラト・ビスタさんを迎えました。

**最近のネパールの政治・社会情勢**

〜 今年の一月に制憲議会選挙

ネパールでは、内戦を経た後の二〇〇八年四月制憲議会選挙が実施され、五月には王制が廃止されて連邦共和制が宣言された。

しかし、新憲法制定（暫定憲法はある）に関わっては議会内の政党間で合意がまとまらず、結局四年を経過して憲法を制定できないままに昨年五月にこの議会は解散した。

このような中央の影響を受けて、地方行政の首長を選出する選挙もここ数年間にわたって実施されておらず、最小の行政単位であるワド内でも責任ある首長が不在という状況が生まれている（因みに、ガハテ村はマハデプスタンVDCワドNo.6）。地域行政が十分に機能しない分、必要な諸情報は村人たちが所属する政党の組織からもたらされているという。今年二〇一三年一月、このような状況を打開するため、再度、制憲議会選挙が実施されることとなった。国家の根幹たる新憲法が早急に制定されて、ネパールが名実ともに新しいスタートが切れることを祈りたいと思う。

二〇〇〇年九月篠山ナマステ会を設立し、ガハテ村にSSSや村人と共にセティ・デビ小学校を建設し、交流を続け現在に至っています。

これら、一連の流れに縁あって、只そこに居合わせたに過ぎない私が何時かライフスタイルまでも見直す契機になりました。「生きるとは分かち合うこと、弱き者と」と説く岩村昇博士と篠山ナマステ会創設者渡辺省悟さん。時代を先取りする人、時代に抵抗する力を持つ真摯な姿勢を今、また改めて懐かしみます。

今回の訪問で出会えた帰国研修生には自国、村にあってこそその笑顔、それぞれ頑張ってほしいと思いました。ミンクマリさんは、SSSの診療所へ助産婦として来ました。「山岸お母さん、私の今日の仕事を是非見て下さい」はにかみと自信が交錯する彼女を思わず抱きしめた私でした。

かつて、トリブバン国際空港で目にした王国の証ロイヤルの文字は消され、全てを知るであろう王宮は博物館として公開されていました。訪れる人、次の時代に何を語り、何を伝えるのでしょうか！

（山岸永子）

**変化すること、変わらないこと**

ネパール訪問は、三回目ですが、どうしても以前と比べてどう変わったかが気になります。セ小やラダ小中の子ども達の人懐っこさと目の輝きに今回も圧倒されました。篠山から持参した絵画を手に手に持って、我がちに写真に収まる姿に持ってきた甲斐があり、本当によかったと思いました。

今回は、会計担当でしたが、物価が随分上がっているようです。特に観光収入を増やすためか、史跡等への入場料が年々高くなっています。昼食代も日本で食べるのと変わりません。

道路は、少しずつ舗装がなされていますが、支線では舗装がはがれ、地面が掘れて、車が立ち往生する光景も見られました。

学校訪問後、校長先生宅に招待され学校に対する思いを聞き、我々の思いも伝えました。直に出会って話を聞くと、互いのことを深く知り合えることを改めて実感しました。

体調を崩しましたが、多くの方々のおかげで無事ツアーを終えることができました。心より感謝申し上げます。

（中西 節）

### ネパール研修九日間

ネパールに行くに当たり壮行会を開いて下さり、たくさんのお情報を前もって教えていただき現地でも役立てることが出来ました。

カトマンドウのトリブバン国際空港では、日本の空港と違って飛行機から階段で滑走路におり、バスに乗って空港の出入り口まで行きました。

次の日、荷物をもってセティディビ小学校に向かいましたが、ぬかるみにはまったので途中から歩いて行きました。学校では、夏休みを早めに切り上げて生徒が出ていてくれて、花の首飾りの歓迎を受けました。篠山の小中学生からの絵や文具を渡し、学習の様子を見学しました。道路の整備工事でパイプが切れたため水が出ないということで、水の大切さを改めて考えさせられました。次に、ラダ・クリシュナ小中学校に歩いていきました。同校でも同じように過ごしました。追いかけて遊びましたが、可愛かったです。

その日は、日本に研修に来ていて、日本語が話せるパッサンという女の人の家に泊めていただきました。食べ物はとても辛く私には無理だったので、辛くないように作っていただきました。ヨーグルトは酸味が強かったけど美味しかったです。現地の人は、手で飲食します。日本人にはスプーンをつけてくれたので助かりました。また、お風呂が住居になく、お風呂好きの私には辛かったです。

ガハテ村の人たちは日本人にとっても親切に対応してくれました。篠山東雲高校に来られたことのあるアチャンマさんが顔を出してくれて、今後の農業についての課題を集会で話し合いました。子どもが学校に行くこともネパールでは難しいことや農業を盛んにしようとしても土地に問題があることを知りま

した。貴重な体験をさせていただき、文化・考え方や生活様式の違いを考えさせられ、日本の豊かさに感謝しました。

今回お世話になった方々に感謝し、今後の生活に役立てたいと思います。

(篠山東雲高校一年 平井くるみ)

※SSSとは、篠山ナマステ会と連携し、ネパールで村づくりを進めているNGO。

### ビシュニュ・マニ・ネパール 通信員報告 2013.9



ビシュヌ・マニさん

セティディビ小学校とラダ・クリシュナ小中学校の授業は順調に行われています。先週、両校とも第一学期の試験を終了しました。奨学生選考委員会が今年度の奨学生を選考、決定しました。

水道パイプラインのメインテナンス後、セティディビ小学校では飲用水が使えるようになりました。学校の水道も蛇口で水を飲めるようになって、子どもたちは大変喜んでます。

ネパールでは、九月五日が父の日でお祝いをしました。それでこの祝日には、ほとんどのネパール人は彼らの父親に果物、食べ物、スイーツやその他のものを贈り物として渡します。

九月上旬の四日間、女性はハリタリカ・ティージ潔斎(Tij festival)を祝い楽しめます。

「ハリタリカ・ティージ潔斎」九月に行われる女性のお祭り。未婚女性は将来の良い伴侶を得ることを願い、既婚女性は夫や子どもへの健康や長寿を願って断食し、そして踊る。赤いサリーや民族衣装を着た女性たちがほぼ一日中寺院の前で踊り続ける。



### ネパールの子どものための 絵画展

篠山市民センターで九月九日から一九日まで絵画展を開催し、交流を深めました。多くの方々が参観に来られ、遠く京田辺市や加東市等からも足を運んでいただきました。



### お知らせ

#### 今後の活動予定

- 黒枝豆販売
- ・販売日 一〇月二二～二三日
- ・販売場所 篠山市河原町
- 人権フェスティバル参加
- ・一二月四～八日
- ・四季の森生涯学習センター
- ・ネパール写真展、バザー等